



AuditPlus

リリースノート

バージョン:	2.0.1
作成日:	2016 年 6 月 11 日
互換性:	GeneXus X Ev2 U4 以降、GeneXus X Ev3



目次

新機能	3
AuditPlus 2.0.0.....	3
• 外部テーブルの監査	3
• 異なるナレッジベースの AuditPlus テーブル	3
• GAM テーブルのサポート	3
• Web テーマクラスの配布	4
• 複数の WorkWithPlus バージョンとの互換性	4
• WorkWith パターンとの互換性.....	4
• UTC での日時の格納	4
• PostgreSQL ライブラリの変更	5
修正済みの問題.....	6
AuditPlus 2.0.0.....	6
• Long Varchar 項目属性	6
• ダッシュボードのタイムライングラフでゼロが無視される	6
AuditPlus 2.0.1.....	6
• 日本語のユーザーインターフェースの問題	6
• Web バックエンドの問題	7



新機能

AuditPlus 2.0

• 外部テーブルの監査

AuditPlus では、監査プロシージャを生成する際にデータビューとデータストア内の情報が考慮されるようになりました。AuditPlus は、データビューの構造とデータストア内の情報を使用して、実テーブル、項目属性名 (外部名)、データベースとスキーマに関する情報を取得します。これはユーザーにはトランスペアレントなプロセスであり、ユーザーはいつもと同じようにトランザクションを使用することができます。

この機能により、異なるデータベースやスキーマのテーブルを監査することができます。

• 異なるナレッジベースの AuditPlus テーブル

設定ウィザードを使用して、監査テーブルを「外部」として設定できるようになりました。これにより、AuditPlus の監査テーブルを別のデータベースまたはスキーマで作成し、それをメインのナレッジベースで参照するというシナリオが可能になります。

• GAM テーブルのサポート

本バージョンから、GAM テーブルの変更を監査できるようになりました。このためには、監査する GAM テーブルごとにトランザクションとデータビューを作成する必要があります。これは手動で、または GeneXus が提供する[データベース リバースエンジニアリング ツール](#)を使用して作成できます。



- **Web テーマクラスの配布**

新しいテーマクラスが配布され、AuditPlus Web バックエンドの外観と操作性を向上できるようになりました。

- **複数の WorkWithPlus バージョンとの互換性**

本バージョンから、複数の WorkWithPlus バージョン/設定 (Responsive/非 Responsive、Compact/非Compact など) との Web バックエンドの互換性が追加されました。これにより、一部の組み合わせで発生していたレイアウトの問題が解決されました。また、GeneXus X Evolution 3 U7 との互換性も追加されています。

現時点では WorkWithPlus 7.0 以降がサポートされています。

- **WorkWith パターンとの互換性**

本バージョンから、WorkWithPlus を使用せずにローカルのバックエンドで AuditPlus を有効化できるようになりました。このオプションにより、GeneXus WorkWith パターンで構築された新しいバックエンドを使用できるようになります。[AuditPlus を有効にする] オプションを選択した際に、設定ウィザードで WorkWith パターンを使用できます。

- **UTC での日時の格納**

AuditPlus では、協定世界時 (UTC と呼ばれる) に基づいて監査日時が格納されます。したがって、データベースに格納される日時は、現在のサーバーの日時と必ずしも一致するわけではありません。監査レコードのローカル日時を取得するには、ローカルタイムゾーンへの変換が必要になります。

GeneXus X Evolution 2 以降は既定で日時が UTC として扱われます。したがって、この変換は自動的に行われますが、場合によっては別の動作が必要になることもあります。

AuditPlus の設定に [Date time UTC storage] という名前の新しいプロパティが追加されました。このプロパティでは、UTC での日時の格納を無効にして DBMS の現在の日時を使用するように設定できます。

GeneXus での UTC の使用に関する詳細については、次のリンクを参照してください:

<http://wiki.genexus.jp/hwikibypageid.aspx?22135>

• PostgreSQL ライブラリの変更

AuditPlus は、既定では PostgreSQL の「uuid-ossip」拡張モジュールを使用して GUID を生成します。PostgreSQL のドキュメントによると、新しい配布では「uuid-ossip」拡張モジュールが適切に維持されていないとのことです。PostgreSQL 9.4 バージョンに関しては、「pgcrypto」拡張モジュールを使用して GUID を生成することが推奨されています。

このため、この新しいライブラリを使用できるようにする新しいプロパティが設定に追加されました。

詳細については次のリンクを参照してください:

<http://www.postgresql.org/docs/current/static/uuid-ossip.htm>

修正済みの問題

AuditPlus 2.0.0

- **Long Varchar 項目属性**

8K よりも大きい情報を Long Varchar フィールドに格納した際に発生していたエラーが解決しました。このような場合は監査情報が失われる可能性があることを考慮に入れる必要があります。

- **ダッシュボードのタイムライングラフでゼロが無視される**

ダッシュボードのタイムラインデータ入力プロシージャーに関する問題が見つかりましたが、解決されました。この問題は、アクティビティ数がゼロだった日がグラフで無視されており、グラフのタイムスケールが誤って解釈される可能性があるというものでした。

AuditPlus 2.0.1

- **日本語のユーザーインターフェースの問題**

日本語のユーザーインターフェースの誤りが修正されました。正しく表示されていない日本語のテキストがありました。



- **Web バックエンドの問題**

Web バックエンドで発生していた表示に関する問題が解決しました。